



第57回中部建築賞

建

通

新

聞

2025年12月11日 (木)

第57回中部建築賞 受賞作品20点を発表



中部建築賞協議会(宮本文武会長)は、第57回中部建築賞の受賞作品を発表した。今回は応募総数87点の中から、入賞・入選合わせて20作品を選出している。

表彰の内訳は、延べ2000平方メートル以上の一般部門Aが入賞1点、入選4点。延べ2000平方メートル未満の一般部門Bが入賞3点、入選4点。住宅部門が入賞1点、入選7点。

受賞作品は次の通り
(①建築主②設計者③施工者、住宅は建築主非公表)。

【一般部門A】
〈入賞〉▽「くらすわの森」建設プロジェクト①養命酒②ヤマウラ一級建築士事務所、丹青社③ヤマウラ
〈入選〉▽愛知学院大学末盛キャンパス 歯学部臨床教育研究棟①愛知学院②久米設計中部支社③熊谷組名古屋支店▽NKG Collaboration Division Square DIVERS①日本ガイシ②日建設計一級建築士事務所③清水建設名古屋支店▽りゅうでんオ

ケン
〈入選〉▽豊橋市つつじが丘保育園①豊橋市②藤川原設計、名古屋工業大学大学院③青山建設、影山電機商会、三河設備工業▽ニシヤマナガヤ+末完美術館+駄菓子屋水都軒+コトづくり研究所①ニシヤマナガヤ、未完美術館、駄菓子屋水都軒、コトづくり研究所②植村

▲入賞した「くらすわの森」
.....
フィス・ハウス①りゅうでん②大建設計③TSUCHIYA▽福井厚生病院①厚生会 福井厚生病院②久米設計③大成建設
【一般部門B】
〈入賞〉▽AND P LUS, SHARE OFFICE+COFFEE①エイコ②HD②無有建築工房③千田工務店▽KAGAMIGAHARA PARK BRIDGE①各務原学びの森②飛騨五木③井上工務店▽龍泉寺本堂①龍泉寺②河原泰建築研究所③アイチケン

康平建築設計事務所、相山女学園大学③誠和建設▽響愛アトスタジオ①響愛学園②大建met③アイタック▽東横山水力発電所①イビデン②熊谷組中部一級建築士事務所③熊谷組名古屋支店
【住宅部門】
〈入賞〉▽Grove Strolling Corridor②and to建築設計事務所③北野建設
〈入選〉▽House & Office SH 在と材と財と庫②I-I-Architects一級建築士事務所③平田建築▽柔らかな間合い②③ミヤタ建築事務所▽南松山の住居②伊藤啓輔建築設計事務所③HDL▽文殊の家②GA設計事務所③松久建築③リビングデザイン▽連環の家②飛騨五木5 boc architects③井上工務店▽岐阜鏡島の住宅②伊藤維建築設計事務所③箱屋▽BIOCHAR②ASEI建築設計事務所③加納工務店

4. りゅうでんオフィス・ハウス

岐阜市柳津町下佐波 1 丁目 196 番 1

中部建築賞審査員評



撮影 Tololo studio

CLT の採用は与条件であったとのことだが、オフィスと社員寮・子ども食堂という異なる機能とサイズに対して同じ手法で空間経験に一定の連続性をもたせている。そのアイデアの白眉は、それなりに大判になる CLT パネルを必要壁量を確保したまま二枚をずらして配置することで、見通しのよい空間をつくるというものだった。そして意匠のアイデアではなく構造のアイデアであるところの二枚壁が、空間に微妙な歪みを生じさせ、視線の溜めと抜けとリズムを作り出している。しかしそうだとすると惜しいのは、冷徹なまでに合理的な二枚の壁の厚みが、ずれによって生み出すクランクの部分（オフィスはゼロタッチ、ハウスは溝形鋼分離れている）でちょうどよい人間的寸法になっているのに、慟く・住むひとにとってのふるまいを喚起するような現れになっていないところである。構造体のまま放り出されずに、ちょうど半身程度のここの寸法が座ったり隠れたりものを置きたくなったり、といった活き活きとした風景を生み出せていれば、この構造的なアイデアは人間の豊かな経験に回収されるような強度を持つことになっただろうと思わせる。一方、室の配置計画によって空調・非空調領域を組み合わせるエネルギー消費量を抑える方法は、シンプルながら今日的な課題に対する汎用性の高い解答となっており、CLT 採用と合わせて学ぶ点の多いプロジェクトである。

(西澤徹夫)

建築の構造設計に携わってきた経歴を持つ社長から、CLT を採用することが条件とされたことから、CLT 探求の設計プロセスが始まった。構造設計者と時間をかけ CLT の特性を活かす構法が検討・検証され、施工者は見事にその実現に応じて、木質感豊かな建築となった。ビル建築での木造架構では、大断面が支配的になりがちだが、2 枚の CLT 版をずらして重ねた面柱にして、鉄骨材とのハイブリッドで、軽やかな構造フレームとなり、オフィス棟では鉄骨梁下に祖まれた CLT 小梁が、このオフィスを特徴づけるように空間に伸びやかな秩序リズムを与えている。構法によって床下にできる空間はそのままダクトレスな空調スペースとなり、居住域での温熱環境づくりに寄与している。非空調と空調エリアの明確な区分による無駄のない空調ゾーニングの考え方により、快適なワークスペースのための空気の流れをつくり出しているか、猛暑期や厳冬期に再訪して、体感してみたいところである。

ハウス棟では 2 枚の CLT 版を溝型鋼でジョイントして同じくずらして重ねた面柱をつくり、CLT 床版で無駄のない架構をつくっている。住居スケールと平面形に応じた耐震要素となる CLT の補助壁の配置も破綻のないきれいな納まりで、木質空間の温かみが存分に体现されている。社員寮（独身者）の計画に、地域への社会貢献を図る「子ども食堂」を組み込んだ運用が、これからスタートするなかで、どのように展開されていくか、おもしろい試みである。

建物を構成する素材の質感、その魅力を引き出し、観るだけで眼を愉ませてくれるこの建築の意義が、街ゆく多くのひとに共有されることを願いたい。経年変化を受けながら、どんな本質が表に現れてくるか、それこそ粋な『然び』を感じ取れる場になって、時・空に奥行きを与えてくれる存在になって欲しい。

(山本和典)

主要用途	事務所、倉庫、社員寮、子ども食堂
構造	オフィス棟：木造一部鉄骨造、ハウス棟：木造
階数	地上 2 階
敷地面積	5996.28 m ²
建築面積	1487.76 m ²
延床面積	2700.49 m ²

建築主	りゅうでん株式会社
設計者	大建設計株式会社
施工者	TSUCHIYA 株式会社